

後継ぎ 若手経営者の 100年戦略

vol.14

モーブル
福岡県大川市
二代目 坂田道亮 さん

「事業」ではなく「家業」を 継いで自社ブランドで勝負

社名 株式会社モーブル
所在地 福岡県大川市中古賀956-1
電話 0944-88-1955
代表者 坂田道亮 代表取締役
従業員 65人
【大川商工会議所】



家具のまちとして有名な福岡県大川市にある家具メーカー、モーブル。1986年に創業し、2012年、二代目として創業者の息子である坂田道亮さんが継いで現在に至る。創業以来の売り上げダウンや価格競争を脱し、新ブランドの創出と新市場の開拓で業績を上げる。



「モノづくりの前に人づくり。人を大切にする『創造業』として、お客さまに喜びや感動を届けたい」と語る坂田道亮社長

「とりあえず3年」 から始まった家業入り

阿蘇山から有明海へと注ぐ筑後川。その河口にある福岡県大川市は、木材の集積所、海上交通の要衝として栄え、国内有数の家具産地として古くから発展してきた。家具づくりのインフラが整い、協同組合に百数十社が加盟するこの地で、1986年創業のモーブルはかなりの「若手」だ。

「創業者である父（現会長・重行さん）は元銀行マンで、結婚後に母の父が経営していたモリタインテリア工業の総務・経理を担当していました。その後、一部の工場とともに分離独立して立ち上げたのがモーブルです。私が中学1年生の頃で、まだ景気のいい時代で業績も右肩上がりだったようです。私も家業に全く興味がなかったわけではありません」

しかし、若者には刺激がないままちがったと振り返る、二代目で代表取締役の坂田道亮さん。高校進学も福岡市を選び、早々に大川を飛び出したという。

「いつかは戻って継ぐことになるだろうなとは思っていました。大

特許技術で水洗いできる マットレスを開発

「社長直々に財務全般の知識をた



2020年にオープンした新・東京ショールーム。自社ブランド品がずらりと並び



同社が開発した「ライトウェーブ」は水洗い、アルコール消毒可で、焼却してもダイオキシンが発生しない



ライスウェーブを使用した「グロー」は、国産広葉樹を使ったサステナブルなごろ寝ソファ

目指すは唯一無二の 競争しないものづくり

「当時はOEM製品とあわせて、自社ブランド『モーブル』のテレビ台や食器棚が主力商品でした。マットレスなら一家に一台ではなく家族分だけ需要があります。新しい人材を採用するなどして開発を進め、私も率先して異業種に営業をかけました。それでも初年度は鳴かず飛ばず。参りました」

家具のまち・大川の知名度も、都市部に行くほど弱まる。特に東京との距離の遠さを痛感し、18年に東京ショールーム開設に踏み切った。

社長と副社長では99対1ほど

「時代のニーズ、ライフスタイル

に合ったものづくりを追求するため、自社商品を全て見直した。同時に過度に多かったバリエーションや機能性を減らし、無駄な作業工程を省いて生産性を上げることに注力します。『新しい快適をつくる』をコーポレートスローガンに、木製家具とライトウェーブを製造できる唯一の企業という強みを生かしたソファの開発など競わないものづくりへの転換です」

会長になった先代は気が気でなかったかもしれない、と苦笑する坂田さん。だが、「最悪ゼロペースでもいいから」と背中を押されたとも言える。売り上げ低迷も5年ほどで止まり、ホテルでの採用や異業種との協業開発、非食用米を活用したバイオマスプラスチック仕様の「ライスウェーブ」の開発など、新機軸を次々と打ち出し、今期は年商15億円となった。『従業員が公私共に充実すること、お客さまに喜びや感動を与えるものづくりができる』と気付きました。100年後、モーブルは家具ではなく違う何かをつくっているのかもしれない。しかし、持続可能な世界のために役立つ企業であり続けたいです」と坂田さんは力強く語った。